

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和八年四月度 入賞句一覧

投句数 七百二句

度会 さち子 選



特選

歩きても佇ちても春の水の音

愛知県西尾市 金子 恵美

水都大垣を歩かれたのだろう。市役所からむすびの戸記念館あたりの川の流れに目をとめ、市役所に湧く噴水の音を背に時々佇み、木の間からみえる大垣城の天守閣を見上げる。ゆつくりと我が大垣を歩いて作者の姿がみえてくる。水の都 大垣の春を詩情豊かに詠みあげた。

朧月ぼんと投げ込む入浴剤

愛知県知多市 浅田 香歌

一日を終えて湯につかる。さて、今日ほどの入浴剤にしようか。温泉系か香りのか。ぼんと湯舟に入浴剤を投げ込めば、ぷくぷくと泡は音をたてて、同時に香りがいつぱいにたちあがる。湯舟につかりながらみる窓の外には朧月と。何やらドラマの一場面を見ようだ。

春陰の橋に翁とすれ違ふ

愛知県日進市 終 琴乃

記念館横の朱色の住吉橋だろうか。そこですれ違った翁。翁とはだれか。そう、芭蕉なのだ。ところどころの橋を渡り、芭蕉は門人たちの句座へと歩いたに違いない。あたる時は、桑名へと続く水門川の橋の上に佇み、望郷の思いを募らせたかもしれない。大垣での芭蕉の影を見事に詠みあげた。

秀逸

板チョコの斜めに割れて冴返る

大垣市 高木 歌佐

ストーブのはしの熱気にゆらぐ空

茨城県結城市 高橋 優月

もののふの影立つごとく陽炎へり

岐阜市 伊藤 をさむ

玲瓏と朝の月あり菜の花忌

大垣市 白井 秀子

境内は神の遊び場百千鳥

大垣市 宮脇 和子

百千鳥発ちて淡海は青みたり

本巢市 小泉 裕子

ただ会ひに来たと言ふ父春霞

揖斐郡揖斐川町 栗野 みねお

水切りや父にほめられ山笑ふ

東京都新宿区 山崎 力

教科書にかほる春愁影のごと

東京都中央区 清水 阿貴子

青空を吸うて雲雀の鳴きしきる

滋賀県大津市 近江 董花

入選

雪合戦逃げる吐息と追ふ笑顔

海津市

横井 美圭

鏡拭くにきび少年木の芽晴

大垣市

平野 順一

苔むせし石仏並ぶ蝶の昼

東京都新宿区

花澤 ちいこ

満開の桜の下を杖はずむ

大垣市

北島 暁子

半兵衛城謎明らかに山笑ふ

不破郡垂井町

児玉 昌巳

杖を友ゆるりゆるりと花見かな

美濃加茂市

座間 蓮子

髪に付く花のひとひら宮参り

愛知県瀬戸市

赤羽 八重子

菜の花の堤に舫ふ渡し船

大垣市

多賀 英華

読み返す手紙の文字とミモザの香

大垣市

川瀬 恭子

蒼天をねこじやらしもてくすぐりぬ

大垣市

大橋 浩美

人事欄今も見ろ癖万愚節

東京都江戸川区

羽住 博之

陽炎や三人寄りて読めぬ句碑

大垣市

吉田 てるみ

初蝶のぢぐざぐるる畑かな

茨城県稲敷郡

杉山 満

菜の花や廃止決まりし渡し舟

安八郡安八町

渡辺 文

サイホンの膨らむを待つ春の朝

神奈川県横浜市

龍野 ひろし

選者吟

月あげて花しろがねにこゑ零す

さち子

一般の部

